作業療法（ＯＴ）
食事や入浴・排泄といった日常生活動作を行うための訓練・指導や創作活動あるいはレクリエーション活動などを通じて身体機能・精神機能を高めつつ、その人らしい生活への援助を行います。

急性期・1983年入職

作業療法士

未だ道半ば

作業療法は一方的にセラピストが患者様に何かを与えるような仕事ではありません。患者様がちょうどよい生活を送れるように、疾患から生活までをよく見て、患者様やご家族が自分で動き出して生活を継続できるように援助するのが作業療法です。

作業することで人は元気になると考えています。好きな作業をすれば元気にもなるし、やりすぎたり、何もしなさすぎると不健康になります。患者様の作業は複雑で、臨床では疑問がどんどん出てきます。今は「コロナ禍の中で健康に暮らすために、作業療法は何ができるか」「重症の患者様の作業って何だろう」と考えて、一つ一つ成果を出していきたいと考えています。

回復期・2024年入職

作業療法士

患者様にとって身近な存在でありたい

医療従事者の中でも患者様と話しをする時間が長く、患者様にとって身近な存在になれると思ったことが、作業療法士を選んだきっかけの1つです。

実際に病院で働き、毎日患者様と接するうちに関係が深まっていきました。そして、いつしか患者様のことを自分ごととして考えるようになり、それがやりがいに繋がっています。

東神戸病院は地域に根差した病院であり、医療法人内で通所リハビリや訪問リハビリも運営しています。そのため患者様が退院された後も、自宅生活をフォローし続けることができます。法人内なので患者様の情報を共有・提供しやすく、必要なリハビリをシームレスに提供できるのも強みだと思います。

回復期・2018年入職

作業療法士

感謝の言葉をやり甲斐に

患者様と一緒にリハビリを進め、関わりの中で元気になっていく姿を見られるのがやり甲斐です。「最初は動けなかったけど最終的に歩けるようになった。あなたと出会えて良かった」と患者様に言って貰えたとき、OTになって本当に良かったと実感しました。とは言え、良くなる患者様ばかりじゃありません。重い障害が残った患者様と接する際、自分には何ができるんだろうと悩むこともあります。

一緒に頑張っていきたいと思うセラピストは、元気で、自分の考えをしっかりと持ちつつ、周囲の意見もしっかりと取り入れることができる人。悩むことはあると思うけれど、その悩みを共有し、一緒に一歩ずつ前へ進んでいきましょう。

急性期・2023年入職

作業療法士

患者様の役割を大切にして

作業療法士として患者様のADLやIADLに関わることが多いです。患者様の家での役割（家事や趣味や好きなこと）を聞き取り、退院後に、その役割を担えるよう患者様と協力しながらリハビリを進めます。その結果、大切な役割を患者様が再獲得できたときに喜びを感じます。

いつかは地域に出たいと思っています。訪問リハビリで利用者様の家に伺い、実際の生活を目にすることは勉強になりますし、作業療法士としての引き出しが増えると思います。利用者様や患者様にとって掛け替えのない役割を大切にし、作業療法士にしかできないことを提供していきたいです。